



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2021年4月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「J P子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



新しい年度が始まりました。今年度もよろしくお願い申し上げます。

環境活動の世界的な高まりの中で、時代の風がJ P子どもの森づくり運動を後押ししてくれているようです。

2021年度、活動の大きなステージアップを予感しています。

今月号では、ステージアップのための今年度の活動についていくつか提案させていただきました。

共に推進させていただいている活動です。ご意見等いただければ幸いです。

(目次)

1. リレーエッセイ特別寄稿
2. J P子どもの森づくり運動 2021年度の活動について
3. 事務局からのお知らせ

■「J P子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営 : NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育園連盟

NPO法人 富良野自然塾

(公社)大谷保育協会

(公社)こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー

国際校庭園庭連合日本支部

(公社)国土緑化推進機構

(一社)日本森林インストラクター協会



1. リレーエッセイ特別寄稿

「子森通信」では、毎年、保育・幼児教育において、優れた研究や活動に取り組んでいらっしゃる方々にリレーエッセイをお願いしております。2021年度は、以下の4人の先生に連載をお引受けいただきました。皆さん保育・幼児教育において素晴らしい活動実績を積み上げておられるおなじみの方々です。それぞれ、3か月づつ連載をお願いしております。どうぞ、お楽しみに。

2021年4月号～6月号	こども環境学会 代表理事 東京工業大学 名誉教授 仙田 満先生	2021年10月号～12月号	全国保育士会 副会長 あけぼの愛育保育園 園長 北野久美先生
2021年7月号～9月号	保育環境研究所 ギビングツリー 代表 新宿せいがこども園 園長 藤森平司先生	2022年1月号～3月号	子森ネット理事 大野幼稚園 園長 藤 兼量先生

今月号では、今年度のリレーエッセイ開始を記念として、仙田 満先生に特別寄稿をお願いしました。新型コロナウイルス感染症下の厳しい環境の中で、皆様の保育・幼児教育に役立てていただければ幸いです。

<特別寄稿>

スマホに打ち勝つプレイ環境（あそび環境）

環境建築家 仙田 満

我が国のデジタル教育の遅れが、コロナ禍で明らかになった。少し前からICTという形で、デジタル化の流れは教育の中でも進められてきていたのだが、コロナ禍によって、我が国のデジタル教育が世界的に遅れている状況が明らかになってしまったといえる。文部科学省ではデジタル教育推進のため、こども1人1台のタブレット配布を目標としている。しかしデジタル化の流れが果たして良いのか、という点も考えていかねばならない。

私は最近 1 編の映画と 1 冊の本によって考えさせられた。映画は『モンテッソーリ 子どもの家』、本は『スマホ脳』（新潮社、2020年）である。

『モンテッソーリ 子どもの家』は好意的な映画評に誘われ、久しぶりに新宿ピカデリー劇場で観た。私はシュタイナーやモンテッソーリスクールの建築的な特長について、20年ほど前に一時期研究したことがあった。以前オランダで見学したモンテッソーリスクールはヘルマルヘルツベルハーという優れた建築家が設計した小学校だった。教室以外のオープンスペース、階段などが丁寧に造られ、感心したが校庭などは殺風景でひどくがっかりした思い出がある。

この映画はフランス最古のモンテッソーリスクールの幼稚園で、モンテッソーリの教具を使ったこどもたちのあそびと学びの姿をじっくりとカメラにおさめている。教師、保育士の役割はこどもたちに寄り添い、支えるもので、それは新鮮だった。教具をしまっておく棚が壁にレイアウトされ、展開しているのはほとんど室内だけであるが、その中にデジタル的なものは全く登場しない。テレビも、タブレットも、スマホも登場しない。とても安心できるこどもの生活が映し出されている。

ICTの活動は児童、幼児の環境にどんどん入ってきているが、それは良いことなのだろうか。この映画はそのことを問いかけるものではないだろうかと思ふ。



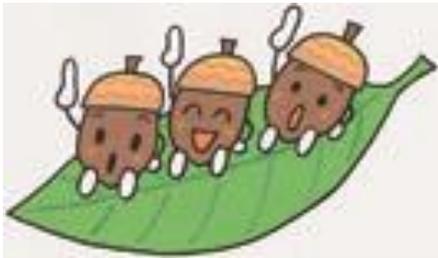


『スマホ脳』はスウェーデンの科学者アンデシュ・ハンセンによって書かれた。その本によるとスティーブ・ジョブズは我が子にスマホを触らせなかった。スマホによって依存症を生み、多くの時間をスマホに費やし、外であそぶことも、集団であそぶこともしないため、児童精神疾患、うつ、登校拒否等のこどもを増大させているという。

スマホは確かにさまざまな情報を即座にひき出せるが、あまりにも簡単に情報にたどり着けるところに問題があるのではないだろうか。私たち人間の長い歴史の中における人と人とのコミュニケーションは対面だった。それにより情報を得るまでに時間はかかったが、心が安定したり、落ち着いたりしてきた。情報社会の中で、スマホとの接触は必要だが、学童からで十分であるし、中高生でも時間を制限して使用するべきだと思われる。こどもとIT機器との接触については十分に配慮されるべきである。アメリカの小児科医会は20年前に2歳以上のこどものテレビやスマホとの接触の制限を勧告した。

デジタル化社会はこれからも進化し続けるだろう。しかし、生きものである人間にとって、その幼児期にしっかりと愛着を形成していくためには、スクリーンではなく、リアルで、自然の中で、多くの人と遊び、学んでいく環境をつくらねばならない。TVゲームやスマホでのあそびではなく、リアルなあそびを体験し、学習することによって心身の健全な育成がなされるのではないと思われる。私の推論では我が国のこどものあそび空間はこの70年間に100分の1のオーダーで縮小している。公園では「大きな声を出してはいけない」「ボールあそびをしてはいけない」等禁止項目ばかりである。これではますますスクリーンに向かってしまう。一方、新しい側面も見えてきている。1年以上に渡るコロナ禍の一つの傾向は、キャンプや野外でのあそび、生活への見直しである。ゆったりとした時間の中で、自然のうつろいや美しさを発見する気づきが養え、そして癒される。

スマホ、スクリーンを超える環境、プレイエンバイロメント（あそびの環境）を考えてみたい。環境建築家としてはハードなプレイエンバイロメントが目標であるが、活動家では人と人との関係がおもしろいプレイエンバイロメントが創出できる。プレイエンバイロメントが質量ともに十分にあることによって、こどもたちがスマホを自制的に使う方法を決めていける力が養われると考える。コロナ禍の中で、教育のデジタル化が遅れていると焦らず、教育環境を見直し、こどもが生き生きと生活できる環境をつくるにはどうすべきかを十分に議論する機会ととらえるべきではなからうか。こどもが主体となるプレイエンバイロメントを十分用意することが、大人の責任である。コロナはこどもの生活の中で、スマホ等のスクリーンよりも魅力的なあそび環境の重要性をさらに実感する機会となっているのではなからうか。



2. J P子どもの森づくり運動 2021年度の活動について

2021年4月となり、新しい年度が始まりました。参加園の皆様におかれましては、相変わらず新型コロナウイルス感染症下における厳しい保育の日々をお過ごしのこととされます。J P子どもの森づくり運動（特別協賛：日本郵政グループ）では、今年度も日本郵政グループの皆さんと共に、参加園の保育活動をせいっぱいサポートさせていただきたいと思っております。今年度もよろしく願い申し上げます。以下、新年度にあたり、まずは、J P子どもの森づくり運動の活動趣旨と時代的背景について、共に確認することから始めさせていただきたいと思っております。



●活動趣旨

J P子どもの森づくり運動が目指してきたことは、幼児(少)期の子どもたちに、木を育てる活動を通じて五感に訴求する多様で継続的な自然と環境の体験を提供し、もって子ども本来の「**生きる力**」と「**環境の心**」を育ててもらうことです。「生きる力」は、これからの予測不能な時代を切り開いていく際に求められる柔軟でレジリエンスな『**非認知的能力**』です。そして、「環境の心」は、気候変動や生態系の崩壊等、今、これまでにない危機的な状況にある地球環境対策として世界的に共有される価値観であり、いずれもこれから持続可能な時代を生きていく子どもたちにとって必須の資質です。

●活動の時代的背景

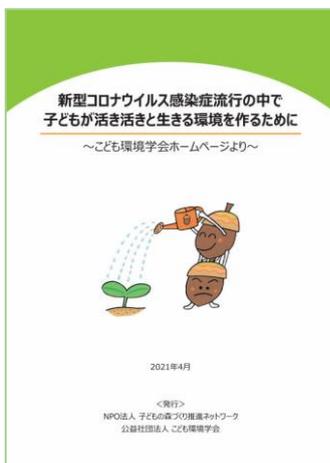
2021年は、地球環境にとって、とても重要な年となります。今、これまでにない危機的な状況にある地球環境にとって、不可逆的な環境対策のために残された期間は、2030年までの期間しかないと言われています。2021年はその1年目となる重要な年なのです。また、新型コロナウイルス感染症下の暮らしは、人々の、なかでも子育て世代のライフスタイルを**SDGs志向**に大きくシフトされつつあるようです。SDGsで実現を目指す持続可能なライフスタイルは、コロナ禍という未曾有の災害を経て、はじめてリアリティを持って人々に受け入れられ、Afterコロナの時代においても主流となると思われます。

●2021年度活動テーマ

上記の時代的背景を踏まえて、J P子どもの森づくり運動の活動意義はますます高まるものと思われれます。求められるのは、何よりもこれからの時代を担う子どもたちの環境意識を涵養する**ESD（持続可能な開発のための教育）活動**です。多くの環境活動アワードにおいてすぐれたESD活動として評価されているJ P子どもの森づくり運動では、2021年度、活動全体の大きなステージアップを目指したいと思っております。

そこで、J P子どもの森づくり運動では、**2021年度、活動のステージアップを目指して、下記の4つの活動テーマを掲げました。**参加園の皆様のご共感とご協力をお願い申し上げます。

1) 新型コロナウイルス感染症下での自然・環境体験活動マニュアルの提供



2021年の春を迎え、野外活動の季節となりましたが、新型コロナウイルス感染症の状況はまだまだ改善されず、まだ当分の間は感染症対応の中での活動となります。

そんな状況を踏まえ、幼児(少)期の自然・環境体験活動を提唱するJ P子どもの森づくり運動（特別協賛：日本郵政グループ）では、運動参加園を対象に、公益社団法人ことば環境学会との共同で、同会が提供する感染症下の外遊びや自然体験活動を実践する際の優れた知見や情報を提供したいと思います。上記情報は、ことば環境学会のホームページに掲載されていますが、確実に皆さんにお届けしたいと思い、「子森通信」今月号と共に冊子として配布させていただくこととしました。ご参照いただければ幸いです。

2) 持続可能な「東北復興グリーンウェイ」の活動体制づくり

2021年は、「東日本大震災から10年」の節目の年となります。しかしながら、復興はまだまだ道半ばです。J P 子どもの森づくり運動としては、これからも「東北復興グリーンウェイ」の活動を継続してまいりたいと思い、そのための持続可能な活動体制づくりを実現したいと思います。

拡がる東北での植樹活動

そんな節目の年に、東北での植樹活動が、岩手県大槌町と福島県福島市に広がります。今年、大槌町の「つつみこども園」と福島市の「ちゅうりっぷ保育園」の子どもたちが、山田町の苗畑で育った東北のどんぐりの苗木を園庭に植えてくれます。大槌町では、「東日本大震災」の鎮魂・追悼、さらに将来世代への教訓を語り継ぐフィールドとして「鎮魂の森（仮称）」を造成するプロジェクトが計画されています。同じように森を育むことを目指す活動として、現在、同プロジェクトと「東北復興グリーンウェイ」の連携も検討されています。（*詳細別紙ご参照）



岩手県山田町
苗畑での植樹風景

東北のどんぐりの苗木を見送る活動～今年から、苗木は岩手県大槌町へ～

2021年度、そんな大槌町に、山田町に続いて2か所目の苗畑が開設されます。全国の参加園で育てられた東北のどんぐりの苗木は、今年から大槌町「つつみこども園」さんにお送り下さい。また1つ「どんぐりの絆」が広がります。

「♪どんぐりえがお」でつながろう・プロジェクト2021

新型コロナウイルス感染症対応で園児たちのつながりが分断されてしまいがちな今だからこそ、子どもたちに「東北復興グリーンウェイ」が提唱する「どんぐりの絆」を歌で実感してもらおうことを目指す「♪どんぐりえがお」でつながろうプロジェクトは、2021年度も継続されます。同プロジェクトの2020年バージョンは、ホームページ内「子森チャンネル」でご覧いただけます。

3) これからの活動を支える3つの活動の推進

2020年度に続き、J P 子どもの森づくり運動のこれからを支える3つの活動を継続し、その基盤づくりに取り組みます。

自然・環境体験活動全国キャラバン2021

長引く新型コロナウイルス下の中で、保育の現場において屋外での活動が自粛されがちな状況を打開するためには、園に出向いた上での活動サポートが重要です。運動を支える活動として、2021年度も積極的にサポート活動を展開してまいりたいと思います。

園庭緑化運動2021

「園庭緑化運動」は、園庭を単なる運動の場ではなく、多様な「外遊び」や自然と環境の体験フィールドとして緑化・自然化していくという活動です。2020年度に実施された3園のモデル事業の成果を踏まえて、2021年度では活動を深掘りしつつ、さらに活動を拡げてまいりたいと思います。

保育防災アクションマイスター認定講座2021

保育施設独自の防災の仕組みづくりを目指す「保育防災アクションマイスター認定講座」の第1期生、12園を対象にしたリモート講座が今年度からスタートします。講座の経過は定期的に子森通信やホームページにてレポートさせていただきます。

4) 「どんぐり劇団」の旗揚げ

J P 子どもの森づくり運動では、これまで「♪どんぐりえがお」をモチーフに、歌やダンスを通じて「どんぐりの絆」を子どもたちに体感してもらった活動を継続してまいりましたが、2021年度は、その展開として「どんぐり劇団（仮称）」を結成し、お芝居の力によって、森で遊ぶ楽しさ、木や森の大切さ、そして環境の大切さを分かりやすく幼児(少)期の子どもたちに伝える活動に取り組みます。

3. 事務局からのお知らせ

1) 「自然・環境体験講座全国キャラバン2021」

★「新型コロナウイルス」の感染症対応は、未だに予断を許さない状況が続いており、さらに対応が長期に渡ることが予想されます。その間、子どもたちは「外遊び」や自然・環境体験が制約され、そのストレスが子どもの発達に深刻な影響を与えることが懸念されます。

★ただ、こんな時でも子どもたちの“生きる力”を育む「外遊び」や自然・環境体験活動は保障されなければなりません。長引く感染症対応環境下での保育者には、感染症対応を実施しつつも、園庭や公園等の身近なフィールドでの「外遊び」や自然・環境の体験活動を実現する知恵と高度なスキルが求められます。

★ J P 子どもの森づくり運動では、感染症拡散以降、“こんな時だからこそ”をテーマに、今年も自然・環境体験活動プログラムのスキルアップを目指す「自然・環境体験講座全国キャラバン2020」を実施します。

募集の詳細は、次月号にてご案内します。



埼玉県「浦和ひなどり保育園」
2020年の活動風景

2) ♪どんぐりえがおでつながろうプロジェクト2021

★2020年度、新型コロナ感染症下で断絶された子どもたちの「どんぐりの絆」を歌の力で取り戻すために、「♪どんぐりえがおでつながろうプロジェクト」に取り組み、このほど2020年度バージョンが完成しました。

★子どもたちは、「コロナに負けない“どんぐり”の苗木のように、ぼくたち、わたしたちも頑張ります！」と元気に歌ってくれました。活動の様子は「子森チャンネル」にアップしました。添付のQRコード、もしくは、ネット検索にて“YouTube どんぐりえがお”でご覧いただけます。是非、一度ご覧ください。



★本プロジェクトは2021年度も継続され、新規参加園も募集します。

募集の詳細は次月号にてご案内します



広島県「山本まごころ保育園」
2020年の活動風景

3) 『「東北復興グリーンウェイ」東北のどんぐりの苗木を見送る会』

活動調査アンケートへのご協力をお願い

★いよいよ、今年も「東北復興グリーンウェイ」の皆様の園で育てている東北の“どんぐり”の苗木をお送りいただく時期になりました。植樹エリアが拡がり、今年も、岩手県大槌町「つつみこども園」さんにお送りいただきます。

★つきましては、「子森通信」と同封で、苗木をお送りいただくにあたってのお願い事項と活動予定についての調査アンケートをお送りさせていただきました。（ピンクの用紙）お忙しいところ恐縮ですが、ご記入いただき、事務局宛ご返信いただけますようお願い申し上げます。

★情報共有が求められる今、皆さんの活動を地域の人たちに知ってもらう広報活動をお手伝いすることも事務局の重要な活動です。「見送る会」について、地元メディアへのリリースのサンプルもお送りしましたのでご参照下さい。



埼玉県「児玉保育園」
2019年活動風景